

## 報告文

# 平成21年度 北海道開発局局長賞を受賞して

共通事業本部 環境部

早瀬 洋一



この度は、私どもが受注した「直轄堰堤維持の内 漁川ダム自然環境調査業務」において、平成21年度 北海道開発局優良工事等（業務）表彰（局長賞）を頂き、関係各位、特に本業務の実施にあたり、ご指導を頂いた漁川ダム管理支所の皆様に、心から御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

本業務は、「河川水辺の国勢調査」の一環として、漁川ダム湖及びその周辺（ダム下流、ダム湖流入河川）における水生生物（魚類、底生動物、動植物プランクトン）の生息状況等について調査を行い、過年度成果と併せて調査結果を整理することを主体とする業務です。

「河川水辺の国勢調査」は、平成18年度より河川特性（流況や河床材など）や植生を基盤としたダム湖環境基図を作成し、この基図をもとに現地調査並びに結果の整理を行うこととなっております。当社としては、この新たな「河川水辺の国勢調査」について、結果の整理に加えて「水域毎の動植物の生息環境を指標とした環境機能の空間的な把握」が主目的であると認識し、環境機能の把握に力点をおいて業務を進めて参りました。業務の特徴は以下の点であり、今回の評価を頂いた点でもと考えております。

### 〈実施方針〉

- 調査対象である水生生物ばかりではなく、それを取り巻く環境要素や他の生物との関わり（環境機能）についても留意した現地調査を計画・実施する。
- 当ダムでは、過年度成果を含め、多くの環境情報を有しており、これらの情報をダム湖周辺の環境保全や維持管理（外来種対策等）のほか、ダム見学者への説明や環境教育等、多岐にわたって有効に活用することを意識して、情報が一目でわかる表現（図面等）を検討する。

### 〈主な実施内容〉

- 「魚類の遡上・産卵、仔稚魚の生息等、生活史を充足する環境」や「その他の陸域生物とのつながりが強くみられる箇所（魚や底生動物を餌とする水辺鳥類の営巣・採餌場所等）の環境要素」についても現地調査で把握し、併せてダム湖環境基図に掲載した。
- 総括として、水生生物の生態系的つながりや空間的利用状況（環境特性・環境機能）を水域区分別に整理した上で、「ダム湖周辺の維持管理」と「ダム湖貯水位管理」の視点から管理上留意すべき事項をとりまとめた。

これらの業務実施に向けての考え方は、当社環境部がこれまでの河川等水域環境調査や多自然川づくりにおいて力を入れてきた部分であるため、今回表彰を頂いたことを環境部一同心から喜んでおります。

本業務においては、管理技術者として担当させて頂きましたが、業務を実施した担当者並びに様々な協力をしてくれた環境部職員に、この場を借りて御礼申し上げます。